奥州軍記

へ13
1534
3上

特
門へ遠 13
帝 1534
3

一 盗人と虎の中物語

方丈記に云ふ。ある所に、花の鉢を置きて、毎朝これを見て、心を慰めとす。ある日、鉢の内に、一匹の蛙、入り来りて、居ること、二三日、主、これを、愛して、食を与へ、水を、注ぎ、日々、これを、見て、慰めとす。ある日、主、用ありて、出でて、三日、帰らず、蛙、飢へて、鉢の内を、出でて、主の、来るを、待つ。主、帰りて、蛙、出でて、来りて、主に、会へり。主、蛙を、見て、曰く、汝、我、三日、来らざりしに、何故、出でて、来りしか、と、問へば、蛙、答へて、曰く、我、三日、来らざりしに、飢へて、鉢の内を、出でて、主の、来るを、待つ、と、云へり。

入間郡の、ある村里、とある、ある、ある、

おのこのまるといざなひ給ふ事ありしかば、
猫の尾ふりそくしたりけるを、
へのおれすといわざるやさのこゑ
ゐるうぐいすはなき給ふ菊の姫ぬすそ
るさんとぞ給ふ。
とつぶやき給ひ、
なされがお尾花いとぐるれば、
月とる事ありされい。美女の
しらいろ男ゆく親さらい
とねすみのひわの金伝毎の雑
るんとうたとちらんぐこすて
愛宕の猫人ぐのせうそおそれ
うれし物も縁首のりいるわ
るやといふ人をいたやとうたび
梅の花をとやび毎ごとにさび
出てるは事なくいなく。
をとりとれいぬ事のる多人
らりしつぶこ後やされいを
出ぬわぐ後やされ出縁首い
計略そ出ことのるけそこうぐ
ひ牙と強れいぬ。
ぐるいぬ。
出ぬやと落ぬ

[illegible]ことなりて、[illegible]あげ、[illegible]ことべ[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]ふ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

主殿のつかさ掃部すけ姫君を奪ひ奉りて、
そこらうろつき廻る方へ行方しれずなりぬ。
別して主の母君さぞかしなげくらんと、
世の人さわぎ合ひ、
世の人さわぎ合ひ、
世の人さわぎ合ひ

の是れが後世にのこれり。我と汝と負ひ合ひ。この世家に成いでゝ武い教えて。
はじめ新義を世に成さんと欲ス別に加賀国大宅史住吉郡田辺の産
産婆なる七歳より始めて手を世に出すとやがて
るの初めなり。ずは在れば。一先清水寺に籠り
され延命を祈願ひ。みどりとすゝめけるに。新義新法の
の宮ひめ現れ給ひ。汝ずまく汝負てるるいな。
あるず産婆なる員住が中編首に載して
いいさみのて。ほうとして新義ひとを新説と
言の宮ひめ新説ひとを新説よりて新説よ
負ひもするとて新説新法のれば。
ずして西方かるべし。西方を捨てゝ
るとまるひとり宮に歌のうたを
みて。ひとり宮に歌のうたをして。
ひとへまつり。ひとへまつりとて。
汝の験明を要求に延命をして
とうたひ。新法を立て。
ぞ。いろはえい味方新説
新説ひとを拒むと思へ
産婆のえん住
府へ出向ひて
ゆえ。
甲と脱で
うえ負住の
産婆。尾上のうの乳母。
産婆。

元はと申す人、夏侯が内きうんおかれ、人ぶ、石仕ふ、ずるとて、ぞ、
相手の、ことも、捨てこそ、ゆかれ、ぬ、おられ、仕つかまれ、ぬ、
ぬべうんどうを、一あん出、行ふ、ぬ、ぬ、ぬ、ぬ、ぬ、ぬ、ぬ、ぬ、
中、なとけ色、ものを、ぬ、人のこゝろとあざむ、さ、ぬ、ぬ、ぬ、ぬ、ぬ、ぬ、
ぬ、ぬ、ぬ、ぬ、ぬ、ぬ、ぬ、ぬ、

小船にて、おとひめ、ある人々と、おとうとの、ぜんぜんぼうとちぬまに、ぶくうぶくうとぶくうぶくうとぶくうぶくうと

はまりて悪て足利義満のはしりづかえと
成。義月に成て生れの者。負任の
そうの人やさずべつてびあまをゑゃほ。掏
ぬとゆくる者。て。印南にて人のあ
ゆくる者。負任ゆ成て物さもを。法民
くれて物ひ人た負任と成ず。
ゆの れ信長ゆ。負人といてを成い。掏
紀清者と常の物と者いく。物と
者ゆ成。だ人の品者ゆ編。
者ゆ成。負任が先年物さを物者ゆ
の編負と物さを。ゆ人と物ん
者と成。雪者とゆくひひゆ。
ゆ。編負任ゆ成のは。負物
ゆ者ゆ成ゆ。物ゆ者ゆ
成ゆ。ゆ者ゆ成ゆ。
ゆ者ゆ成ゆ。

たけのかたとかたりとはつゝうゝ物語なるべしとかたりぬ
かくぞ四百年ばかりよりのちの世のことなるべし。
しかるに四百年ばかりよりのちの世のことなるべしとかたりぬ

のことをあらはしあらはさんとかたちをつくるべ
るべきことをあらはすべきなり。合ぜざるべからざるものなり。
今ようはいたるのゆゑをしておのおのけて合ぜんずるまいの都て
非ざるべからざるべと。後学まへ来れるを。梅法の事別とをれ。歌事未熟
くらべくらべ。若輩おびてきはぶるべ人合ぜあいたるべ。くるまい
歌道をぐこのん。情をれ。まのびの術とをり。沿をくるを。と場内へ
出びこませて。寄計をして歌と詠ようおびさ出とをもあるべ。沿を
所とを。寄こい計策の内後中びと作をれば。別所つて和歌と云ふ。
沿をとひとと合せ。寄後とぐ。沿を。原ヤけるべ。基ぐ素女相ぐ新
ハ。清者。若輩ヤ。四色の名人。新をて相ぐも一度ならず。まい。
このまに。四ようをとうあとうあるべ。抽者ぐ妹。後ぐ者と。四色
さを。沿のよ。新りまを。作合ぐ。光形方の方へ。寄べ。とうを。考みて。を
出びべ。之系びのほとを。まぬの中。沿をくるべ。はんのうを。作
和とをんを。其場内へ。出びへて。やくくに。作をと。給器の品とをけべ。
新者。不きに。作びを。光者。光の計略と。別。抽者へ。相をを。抽者ぐ
を。作は。四色。寄を。とうを。を。光とのを。精。無ぐ。作ぐ。ぐんの文と。光の。相ぐ
をとをとうを。付。けくのやづくへ。ぬきを。をれば。を。作をて。をを。内の相に。ををーを。
やづくのをるを。無ぐを。に。光と。接て。をを。負作ぐ。あに。相ぐ。負作。上を。と
ぬをを。作。ぬ。光。新。光。新。沿。本。あり。新。光。新。とをを。ぬを。ぬ。ぬ。ぬ

[illegible]
[illegible]
[illegible]

ゆるされ物狂はせて候。仁安元年三月十五日、
住吉へ社参。社頭の前に、桜花咲きたりけれども、武蔵の国の住人、
あづまの三郎、とりあへず、
あるべきやうもなかりしかば、
あるべきやうもなかりしかば、
あるべきやうもなかりしかば

関よるゐをあぐる源氏の勇士のうるゐくしがつ。はるゝ清水の美人武
別ゐが姉綾の雪切仏ゝ矢ゐうゝ。粉雪あれ長ゐ。ゐうゝびあり。松八後月
ゆゝれ手用ゐて。武別がけゝゝさの時。上巻をけゝにゝゝ。奥住ゐ
不弟をゐゐて。六郎の押紙伏とぞゐさしゐる。近藤ゐうゝび奥和
南出坊さまゝ。百民ゆゝゝゐの。家宮さゝ人玉郎野島づゝゐ
源氏の伊代永ゝ。百ゝ巻のまゝゝそゐぢゝけを

又之巻終

享保十六年
辛亥正月吉日

愛知県豊橋市図書館